

熊野灘や紀伊水道に臨む紀伊半島の沿岸部では、縄文時代以来、様々な生業が営まれてきました。瀬戸内海と太平洋を結ぶこの地域では、陸上交通網が発達した現代からみても驚くほど広域にわたり日本列島各地と海を介した交流を行われてきたことがわかっています。

紀伊半島の沿岸に所在する縄文・弥生時代の遺跡は、各地の人びととの交流を示す様々な遺物が出土しています。とりわけ縄文土器や弥生土器は、紀伊半島の東岸と西岸でその形や文様が異なっており、東岸では熊野灘や伊勢湾を介して東海地方と、西岸では紀伊水道を介して近畿地方や瀬戸内地方と盛んに交流が行われていたと考えられます。

こうした紀伊半島の東岸と西

令和5年度冬期企画展

紀伊半島の

—縄文・弥生時代の地域性—



岸に認められる地域性は、縄文時代や弥生時代の石器や漁労具の分布にも現れており、海を介した日常的な交流の範囲を示していると考えられます。

狩猟や採集を生業とした縄文時代と、本格的なコメ作りの開始だけではなく金属器の使用や新しい祭祀が広まった弥生時代は文化や社会が大きく異なります。それにもかかわらず、日常的な交流範囲が大きく変化しなかったことは、当時の人びとの生活と自然環境との深いかかわりが背景にあったとみられます。

本展示では、縄文時代から弥生時代の長期間にわたり変わることのなかった紀伊半島の地域性を考古資料を通じて紹介します。



左上：三重県尾鷲市曾根遺跡
縄文時代の石器（祭祀具・工具・漁労具・狩猟具）
[尾鷲市曾根区蔵]

左下：すさみ町立野遺跡
弥生時代の弓（県指定文化財）
[和歌山県教育委員会蔵]

中：みなべ町徳蔵地区遺跡
弥生土器・石器（農具・工具・狩猟具・祭祀具）
[みなべ町教育委員会蔵]

右：新宮市八反田遺跡
弥生土器
[和歌山県教育委員会蔵]

■展示講座③

日時：令和6年2月11日(日祝) 13:30~15:30

- ・定員：30名(先着順)
- ・資料代：100円(別途入館料が必要)
- ・対象：小学生以上
- ・申込方法：電話または資料館受付での事前申込みが必要
- ・受付開始：1月26日(金) 13:00~先着順



ホームページ

背景写真：潮岬から望む熊野灘（串本町）